



小国中だより

小国町立小国中学校
令和2年9月10日
文責 八木幸夫

生きる

山田かまち

かまち、おまえは
人に好かれるか好かれないうことで、
生きているはずではなかったはずだ。
おまえは、生きる。
ただ、自分の生き方を貫く
それひとつだけのために、
おまえは裸
たったそれだけ、おまえの心しかこの世にはない
おまえの生き方を貫く
消えるまで、生命が消えるまで
すべての力を出し切って、生きる
それがおまえの生き方だ。
おまえの生き方を貫け
それは意地ではない
美しさだ
今までは人の言うことを聞きすぎた
みじめな気持ちになり
仲間が欲しくなり
ろくでもないヤツを仲間だと思い込む
それからおまえが崩れていく
かまち
おまえは自分をもっと大切にしろ
激しく美しく生きる
見せかけや、その時のいくじなしなみじめさは

見せかけや、その時のいくじなしなみじめさは
激しい美しさ、真の叫びこそが美しい
くだらん連中に妥協するな
おまえにはおまえがある
人のことを考えず
自分の生き方を貫け
輝く激しさだけを信じろ
今を信じろ
自分を信じろ
ただ燃える一本の声明を信じろ
おまえは美しい
変わることはない偉大な真実だ
人に悲しまされるな
物事に悲しまされるな
おまえは生きることを生きろ
おまえは再び生きることをつかめ
おまえは眠っていた
それを揺り起こして
さあ、再びおまえを生きるんだ。
再びおまえを
妥協は敵だ
おまえはおまえしかないのだ
おまえがおまえでなくてどうする
おまえは生きることを生きろ
昔を思い出せ

この詩を書いたとき、作者山田かまちは17才でした。作者自身が自分に語りかけ叫び続けた詩です。高校受験に失敗して中学浪人、失恋や仲間とのいさかい……。自分が受け入れられない悶々とする思いを抱えながら、それでも自分自身を奮いたたせ、悩みや迷い、不安から立ち上がろうとする自分を鼓舞する詩です。若者には、誰にも困難を克服する力がある。

小国中学校オープンスクール 9月25日(金)

9月25日(金)、小国中生の日常の学校生活の様子や活動等を保護者の皆さんにご理解いただくために、「小国中学校オープンスクール」を計画いたしました。普段の小国中生の授業の様子を公開し、学年毎の懇談会を実施いたします。短時間の公開になりますが、ご来校、参観くださいますようご案内いたします。

例年、オープンスクールには、終日学校を自由に参観できる日として、地域の皆様にも広くご案内を差し上げて実施して参りました。校長室も開放し、校長室に立ちより様々お話をくださる保護者、地域の方々も年々増え、喜んでいるところでした。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、6月に予定しておりました1回目のオープンスクールを中止いたしました。2回目は左記のように実施いたしますが3密を回避しながらの学校公開とするために参観時間を限定し、入れ替えをお願いしての実施とさせていただきます。同時に実施する新人戦壮行式も町体育館を会場に参観は1、2年生の保護者の方に限定して実施いたします。

9月3日付けで1次案内を差し上げました。参加票の提出や検温の実施等をお願いすることになりますが、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

公開授業の内容等、細部については、間もなく2次案内を差し上げます。

小国中学校オープンスクール 生徒玄関からお入りください。

受付 13:20～13:50
授業参観(男子生徒保護者)
学年懇談(女子生徒保護者)
13:50～14:15
授業参観(女子生徒保護者)
学年懇談(男子生徒保護者)
14:15～14:40
町体育館へ移動
14:40～15:10
地区新人大会壮行式
15:15～15:45

ブライアン先生、ありがとうございました

小国高校のALTを務め、本校の英語の授業にもご協力いただいていたブライアン先生が、ALTの職を退かれることになりました。引き続き小国高校に勤務されますが、今後はコーディネーターとしてお勤めされることから、本校で授業をしていただく機会はなくなります。集会でお別れのスピーチをいただき、生徒を代表して、舟山凧海さん(3年)、渡部綾弓さん(3年)、高橋葉花太さん(3年)が感謝のスピーチと花束を贈呈し、別れを惜しみました。

